



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第90号
2025年1月20日
編集兼発行人
瀧澤 照廣

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



小貝ヶ浜の初日の出

撮影者：大津 博昌
撮影日：令和6年1月1日
撮影場所：日立市小貝ヶ浜海岸
撮影余話：

小貝ヶ浜は小さな海水浴場として一昔は賑わいを見せていましたが、崖などの崩壊や少子化などで訪れる人も少ないようです。砂浜に降りた人達をアクセントに構図をとり、丁度朝日が砂浜に届いた時点でシャッターを切りました。松は「吉祥の象徴」とされ、このおめでたい松と初日の出と一緒に見られることは「不老長寿」にも通ずると言われています。

新年を迎えて

支部長 田中 幸二



明けましておめでとうございます。明るい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はコロナもあけて、同好会をはじめ、各種の活動を積極的に推進していただきましたことに深く感謝申し上げます。今年も引き続き活発な活動をお願いいたします。

また、昨年はドジャースの大谷選手が野球の本場で米国選手をも超える連日の活躍で元気を与えてくれました。日本のスポーツ界は低迷した時期もありましたが、ここ10年ぐらいで日本のお家芸だけでなく、多くの競技で世界の強豪と伍していけるようになってきました。バドミントン、卓球、サッカー、ラグビー、バスケットボール、フェンシングなどです。これらの競技が強くなってきたのは、従来の国内中心の指導者、指導法、選手育成だけではなく、その競技の強豪国から監督、コーチ、選手を招き、また選手を海外に派遣して育成していったことが大きいと思います。

スポーツは特に勝ち負けが如実にでますので、強い相手の研究や教を乞うて、それをわが強みと融合して進化させていくことが大事かと思えます。その過程で相手へのリスペクトも生まれてきます。自らの殻に閉じこもらずに多様な価値観や考え方を認める多様性が大事です。

世界では、ウクライナ侵攻から中東に戦禍が拡大し、自国第一主義も広がって分断が進んでいます。気候変動対策を含めて持続的な社会の構築が危機に瀕しています。本年は、多様な価値観が認められるようになって、分断を乗り越え、紛争や社会課題の解決に

向けて明るさがみえる年となることを強く願っています。

最後に会員の皆さま並びにご家族のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

茨城支部からのお知らせ

- ① 第74期第1回日立社友クラブ理事会報告
 - ・会員候補者から114名が入会を承認され、本部会員総数は7,316名となった。
- ② 2024年12月茨城支部役員会報告
 - ・支部入会申込者7名の入会が承認され、会員数は878名となった(前年比-26名)。
 - ・茨城支部規約改正の本部承認に基づき、内規の事務局員の記載に関する改正案を承認した。

茨城支部総会のご案内

2025年度第123回茨城支部総会の開催を以下に予定しています。詳細については後報とします。

- ・期日：2025年5月23日(金)10:30～13:00
総会 10:30～11:30 懇親会 11:30～13:00
- ・会場：ホテル天地閣

「理科室のおじさん」急募

日立理科室クラブからのお願いです。

週2日間ほど、日立市内の小学校へ出向いて、理科授業の先生のお手伝い(準備・整備・後片付け)をしていただける方を募集しています。「子ども好き・科学好き・モノづくり好き」な方、是非お願いします。

連絡先：日立理科室クラブ 担当：小田井・河野

TEL・FAX:0294-24-3104

E-Mail: hsc-rikakurabu@net1.jway.ne.jp

日立社友クラブ茨城支部ホームページ
日立理科室クラブホームページ

<http://shayuu-iba.la.coocan.jp/>

<http://www.hitachi-rika.sakura.ne.jp/>

大自然とふれあい八十年

山とスキーと温泉を満喫

東海林 昭



前書き

今年夫婦ともに米寿を迎え、第二の人生を卒業し第三の人生に入った。五十二年間住み慣れた自宅を離れ、マンションに昨年四月に引っ越した。

引越しの荷物を選別していると思いつつ越しのある写真、アルバム、記念文集、賞状、メダル等多く、整理が着かず人生を顧みることにした。大自然を相手のアウトドアスポーツ一辺倒の人生で我ながら驚いた。その歴史を恥ずかしながら紹介してみたい。

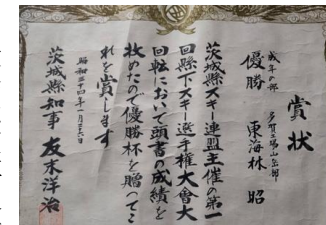
生い立ち

昭和十三年天童市に生まれた。四方を山に囲まれた村山盆地で、毎日裏山を駆け巡った。幼い頃に両親を亡くし親戚に支えられながら戦中、戦後の物のない時代であったが成長できた。小学四年の時、家庭の事情で山形市に移り行動範囲が広がった。幼い頃から大自然とのふれあいが始まり、近郊の山々と蔵王山を我が庭のように登った。高校時代はスキー部と登山部で暇なく行動し、体力を付けた。特にスキーは野山を走り廻るノルディックスキーをやり、オフの毎日のランニングがその後の体力、筋力を養ったと思っている。スキーではインターハイに出場でき、登山では月山、朝日連峰、飯豊連峰、鳥海山を踏破した。早く独立すべく工業高校に進学し、先生の推薦もあり日立多賀工場に入社できた。

日立多賀での生活

昭和三十一年入社すると、配属先の職場にはラグビー部と山岳部の先輩がおり、いろいろ教えてくれて、仕事と遊びの両方をかみ締めるスタートとなった。山岳部とラグビー部に籍を置きながら、ラグビーでは十年間プレーを楽しむ体力増強と多くの友を得ることができた。雪なしの茨城県が初めて国体スキーに参加した昭和三十三年、県予選会に工場代表として仲間と参加し、首尾よく優勝して第十三回札幌、十四回蔵王王国体に参加できた。県もこれを契機に第一回茨城県スキー選手権を岳スキー場で開催、強豪を押さえ体力勝負で優勝でき初代覇者となった。

その後のスキー大会は茨専入学や仕事に専念して選手としては休止し、県の監督として二回出場したのみであった。登山も連休を利用して山仲間や家族と日光、吾妻、那須連峰、白馬から鹿島槍縦走、利尻から屋久島宮之浦、羅臼岳、白神山と日本全国を巡り大自然を満喫した。



第1回茨城スキー選手権優勝

第二の人生

会社の事情と自身の希望決断により、五十二才で日立を退社し、日立とは関係のない企業へ転職した。会社で培った技術と経験を存分に活用でき心身共に余裕ができた。体力、気力があるうちに大自然とふれあい、大好きなスキーと山行を促進した。シニアスポーツが盛んになりつつあり、二十五年忘れかけていたスキー競技を再開する事に挑戦、県大会では役員を手伝いながら大回競技に出場し、予選を通過して全日マスターズスキー大会に参加できた。マス

ターズスキー大会普及のためレーシングクラブを発足し会長となって率先して普及に努めた。年に一回の大会でカラフルなビブゼッケンが支給され、二十七枚保管していた。約三十年間参加していた。七十、八十才台の部では四回入賞できた。その甲斐あって平成三十一年県として初めてのスキー界レジェンド表彰を受けた。その間カナダのヘリススキー、スイスの山スキーなどスキーの醍醐味を体験できた。その後は体力の限界も感じ令和四年田沢湖大会を最後に八十四才で競技スキーを無事引退できた。



全日本マスターズ(78才)

大自然とのふれあい三昧

六十才前後がアウトドア活動の全盛期であった。五十九、六十才の二年間でスキーと山行は海外を含めて六十四カ所、温泉入浴は八十七カ所と記録されていた。日本百名山の八十座を山友や家族と登っていた。私の登山は単独行動ではなく、安全第一の一般ルート登山をモットーにしてきた。「人の役に立ってないか」と考えて、日立多賀山岳部OBの山の愛好会「里美岳苑」が発足した平成十四年に入部した。超ベテランの岳人と親友が揃っていて順調に運営された。岳苑の約束事は「健全にして周到、奉仕心を忘れず力を合わせ、自ら行う



台湾の玉山登頂(71才)



百名山完登・槍ヶ岳山頂山友と歓喜(68才)

あとがき

以後、里山と近くの温泉を楽しんでいる。全盛時代の思い出と八十年間の大自然とのふれあいを人生意気に感じ実践したことを回顧し、偏った体力、気力、活力の人生だったが悔いはない。同好会では十数年前から歩こう会世話人として、下見から本番まで参加しお手伝いをさせてもらっている。「歩くこと」を一生の仕事としてこれからも継続したい。

東海林 昭氏 連絡先

〒312-0052 ひたちなか市東石川
メール: atokai2008@gmail.com

リレー随筆(90)

国際標準化活動のひとつ

白坂 行康



2008年11月のブラジル・サンパウロでの国際会議、筆者の右手は意志に関係なくおもむろに挙げられていた。出席者の多くの視線が筆者に向くなか、隣の日本人参加者から「白坂さん、今は賛否の質問でなく、新たに設置される改定委員会の委員長候補者の選出

ですよ。」と確認された。筆者の語学力を懸念し、議題を誤解していると心配している。私は、「承知しています。この右手は日本の電力会社が挙げたんです。」と思わず答えていた。

前日の夜、国際電気標準会議(IEC)の全体総会に参加している日本人の主要参加者が集まり、電力会社が主導しAll Japanで進めるUHV(80万ボルト超の超々高電圧送電)技術の国際標準化を特進するため、主要ポジションに就ける可能性が有れば確実に獲得していくことが指示されていた。そして、IECの電力用変圧器技術委員会総会に日本代表として出席し、UHV国際標準化対象の「絶縁レベルとその絶縁試験法」の規格改定開始が決議され、その改定委員会の委員長が募集された。そのポストを獲得することは目標達成のために非常に重要であり、そのプレッシャーから筆者の右手は勝手に反応していたのだ。

一方、もう一人が委員長へ名乗りを挙げていた。英国代表でかつ次期電力用変圧器技術委員会本部委員長に就任が決まっている国際標準化のスペシャリストで、これは負けたと感じていた。その時米国代表から

「本部委員長と改定委員会委員長の両方を務めるのは厳しいのではないか？」とのコメントが出され、決戦投票も行われずにこの議題は終了した。その後の休憩時間に幹事に結果を確認すると、「お前が委員長になった。」との回答があり、筆者の委員長就任が決まったのだ。総会終了後に、欧州からの出席者から「この重要規格の委員長を欧米以外で務めるのは君が初めてだ。前回改定作業はとても揉めたので今回の委員長対応も非常に大変だぞ。」と厳しい助言もされた。そして、この改定作業を2009年から2013年で進め、この間に2回の国際投票を経て2013年7月に新規格を発行できた。

このIEC規格には日本の基準と同じUHV変圧器の絶縁レベルとその試験方法を反映でき、現在も活用されている。また、この作業では電力用変圧器技術委員会本部委員長となった英国の方が幹事役として献身的に支えてくれ、独特な規格文書の英文作成も問題なく進めることができた。多くの方々の支援にて規格化できたことに感謝している。

筆者は現在もIEC活動に携わっており、今後も日本の国際標準化活動に貢献していきたいと思っている。



ウィーンでの会議風景/奥の右が筆者(2011. 2. 15)

同好会行事に参加して



「囲碁の会」

安藤 捷治

私が囲碁を覚えたのは小学3年頃であった。父が近所の囲碁仲間と対局を楽しんでいるのを見て興味をもち、囲碁の基本を教えてもらった。13子の置き石でハンデキヤップを貰う星目風鈴(セ任カカリ)で対局を始めたが、最初は全く歯が立たなかった。それでも次第に置き石数も減り星目(9子)で打てるようになり、高校生の頃には3子ほどにまで上達できた。

大学寮生時代は囲碁の好きな先輩がいて時間が合うとよく対局した。大学時代囲碁部に所属した者には高段者になった者が多いと言われているが、私は囲碁部には入らなかったの、その後大して上達はしなかったが帰省時、父との対局で勝てるようになった。

日立工場時代は職場には好敵手の先輩達と昼休み対局を楽しみ、工場の部対抗戦で好成績が多かった。

2001年社友クラブ茨城支部が発足した折、囲碁同好会を発足させ、現在も続いている。最近発足当時に比べ参加人数が減少気味であることが残念である。

一方団地内で囲碁の会ができ10年以上続いており2回/月楽しんでいる。囲碁は仲間と楽しく交流ができ、心身老化防止に最適な趣味の一つです。

囲碁格言：碁打ちは親の死に目に会えない！ 小生も両親の死に目に会えず格言とおりになっている。

囲碁に興味がある方は、社友クラブ茨城支部囲碁の会例会にお越しください。基礎からお教えします。



「旅行会」

志田 統一

新型コロナウイルス発生以来、途絶えていた旅行会が10月24日、3年ぶりに催行された。行先は奥日光、参加者は14名、茨城交通のバスで朝7時に出発した。天気は曇りだが時々青空も見えて、雨に降られることはなかった。常磐自動車道から北関東自動車道、東北自動車道を経て、いろは坂を上り、明智平に着いたのは10時頃。当初、ロープウェイに乗車予定だったが、大変混んでおり、待ち時間が約1時間とのことから断念した。そこから中禅寺湖まで行き、湖畔で記念撮影後、昼食まで自由時間とした。付近に勝道上人によって建立された「中禅寺(立木観音)」があり、これを観光するグループと、「イタリア及び英国大使館別荘記念公園」を観光するグループに分かれたが、私自身は後者のエリアを観光した。英国の建物は明治維新に大きな影響を与えたアーネスト・サトウの個人別荘として建てられ、その後、英国大使館別荘として長年使われてきたものを復元したとのことだった。12時過ぎに昼食、その後、遊覧船で中禅寺湖を一周した。船には修学旅行の子供たちも同船し、子供たちの喧騒の中、デッキで風を受けながら紅葉を楽しんだ。その後、「龍頭の滝」へ移動して滝の流れと紅葉の絶景を見つつ、カメラのシャッターを切った。このところ、旅行会への参加者が減少しており、存続が危ぶまれる。多くの方々の参加を期待したい。

同好会の行事ご案内（2月～4月）

1. 第92回研修会

【那須・大田原地方の歴史探訪】

那須地方は全国でも有数の古墳の密集地である。大田原市にある全国で7番目に大きい前方後円墳である侍塚古墳群、国宝「那須国造碑」をご神体として祀られている笠石神社、重要文化財の那須神社、なす風土記の丘湯津上資料館などを参拝、見学します。

- ・開催日：令和7年3月19日(水)
- ・集合：大みか駅前(東口) 8:00
日立南ドライブイン 8:15
- ・帰着：大みか駅前(東口) 17:30頃の予定
- ・会費：9,000円の予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：25名(20名以上の参加で実施)
- ・申込締切：1月31日(金)
- ・申込先：石田和夫
- ・Tel/Fax：0294-34-0209 携帯080-5087-2555
- ・E-mail：ishida.kazuo@nifty.com

2. 第100回歩こう会【水戸八景めぐり】

徳川斉昭が天保4年(1833年)に選定した水戸八景を、バスを利用し、八景近くの駐車場に停車して、そこから各水戸八景まで歩きます。(歩行距離約3.6km)

- ・開催日：令和7年4月4日(金) 小雨決行
- ・集合：大みか駅前(東口) 9:00
日立南ドライブイン 9:15
- ・めぐり順序：大みか駅前発→太田落雁→山寺晚鐘→青柳夜雨→僊湖暮雪(昼食)→広浦秋月→巖船夕照→水門帰帆→村松晴嵐→大みか駅前着
- ・帰着：大みか駅前(東口) 16:30頃の予定
- ・会費：4,500円(バス代)(昼食無し)
- ・募集人員：最大45名(30名以上の参加で実施予定)
- ・申込締切：2月28日(金)
- ・持参品：弁当、飲物、雨具、マスクなど
- ・申込先：小野瀬秀夫
- ・Tel/Fax：029-282-4124
- ・E-mail：h1941.0830.onose@tenor.ocn.ne.jp

3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします）

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場 所	時間	
		2月	3月	4月			
野鳥・自然観察グループ	高木宣輔 0294-37-5250 takaginh-big8450 @kke.biglobe.ne.jp	10(月)			涸沼自然公園 周辺	9:00～ 12:00	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			10(月)		高萩市 高戸海岸	9:00～ 12:00	
				28(月)	大子町奥久慈 憩いの森公園	9:00～ 12:00	
囲碁の会	真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	12(水) 26(水) 28(金)	12(水) 大会 26(水) 28(金)	9(水) 23(水) 25(金)	大みか拠点	9:30～ 16:00	参加費：¥100/回 大会：¥1000 (昼食費含む)
	七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	20(木)	27(木)	17(木) 大会	大島コミュニ ティセンター	9:00～	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-naniki@themis.ocn.ne.jp	24(月)	31(月)	28(月)	らぼーる ひたち	9:30～	参加費：¥1700/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@net1.jway.ne.jp	5, 12 19(水)	5, 12 19(水)	2, 9 16(水)	会瀬体育館	9:00～ 12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	4(火)	4(火)	1(火)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	7(金)	7(金)	4(金)	大みか拠点	9:30～ 13:00	参加費：¥300/回 昼食別途
勝田パソコン	佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	25(火)	25(火)	22(火)	ひたちなか市 ワークプラザ	13:15～ 16:00	参加費：¥500/回

注)・旅行会(連絡先；溝口忠憲)は開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

訃 報

杉浦 登	令和5年 6月 13日	満 73 歳
堀江 浩一	令和5年 8月 28日	満 89 歳
一瀬 武郎	令和5年 10月 30日	満 90 歳
伊藤 喬章	令和6年 8月 28日	満 85 歳
照山 莊伍	令和6年 9月 24日	満 94 歳
内田 睦夫	令和6年 11月 10日	満 79 歳
千葉 實	令和6年 11月 22日	満 80 歳
内藤 凱夫	令和6年 11月 23日	満 83 歳
畑山 直勝	令和6年 12月 1日	満 80 歳
鹿森 保	令和6年 12月 12日	満 81 歳
神田 昌男	令和7年 1月 3日	満 91 歳

編集後記

10数年以上「歩こう会」の世話人として活動されている東海林さんより84歳までの競技スキー参加や茨城県スキー界レジェンド賞受賞、日立多賀山岳部OB会での活動経歴や日本百名山踏破等の輝かしいアウトドア活動歴を寄稿頂いた。私達も日常生活にアウトドア活動を取りいれたいと強く思います。白坂さんの日本で開発・実証されたUHV変圧器に関する技術を国際規格に採用させる取組方は今後も大いに参考になると考えます。今後のIEC規格制定や改定作業でもご活躍が期待されます。

瀧澤 照廣